

新春 対談

気候変動を考える

取手市長

気象予報士

さいたきみはる
藤井信吾 × 齊田季実治

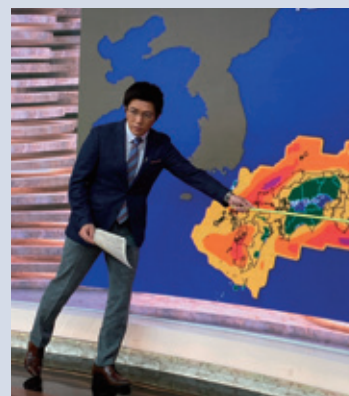
NHK「ニュースウオッチ9」
に気象キャスターで出演中



地球温暖化などによる気候変動の影響を受け、大規模な風水害が増加しています。その中で取手市は、令和2年8月に県内自治体で初めて気候非常事態宣言を表明し、環境問題に取り組んでいます。

今回は、気象予報士・防災士としてさまざまな経験を持つ齊田季実治氏を招き、気候変動が私たちの生活に及ぼす影響や気象情報の活用の仕方などを伺いました。

齊田 季実治（気象予報士、防災士）
昭和50年、東京都生まれ。北海道大学で海洋気象学を専攻し、在学中に気象予報士資格を取得。北海道文化放送の報道記者、民間の気象会社などを経て、平成18年からNHKで気象キャスターを務める。現在は「ニュースウオッチ9」に出演中。NHK朝の連続テレビ小説「おかえりモネ」の気象考証を担当。



① 進む地球温暖化、要因は

藤井市長（以下藤井） 近年、世界的な規模で地球温暖化が問題となっています。このまま温暖化が進んで、今後さらに気温が上昇する可能性が予測されています。私たちの生活にも影響が現れてくると思いますが。

齊田季実治（以下齊田） 私の子どもの頃は、最高気温30度以上の真夏日は頻度も少なく、その日はとても暑いと感じていました。しかし、現在は最高気温35度以上の猛暑日も珍しくありません。

今後さらに温暖化が進むと、最高気温40度を超えるような日が日常になってしまうかもしれません。改めて気温の上昇を認識する必要があります。

藤井 温暖化は温室効果ガス（※1）の一つである二酸化炭素（CO2）が増えていることが、一番の要因でしょうか。

齊田 そうですね、CO2排出量の増加が温暖化の一番の要因と言われています。CO2の排出量を抑え、さらに削減につなげるために、全世界が一体となって行動を起こさないといけないと思います。

※1 温室効果ガスとは
主な温室効果ガスには、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガスがあります。二酸化炭素は地球温暖化に及ぼす影響がもっとも大きな温室効果ガスです。

② 気候非常事態宣言を表明して

齊田 取手市は茨城県の自治体で初めて、気候非常事態宣言を表明したと聞きしました。これはとても意義があることだと思います。具体的にどのような取り組みを進めていますか。

藤井 取手市は環境に配慮した事業者として、その役割を果たしていくことを目指し、第二次取手市地球温暖化防止実行計画（事務事業編）を令和3年3月に策定しました。公共施設からの温室効果ガスの排出量の削減を目指します。具体的には、2013年度比で40%の削減を2030年度までに達成する目標です。

ただし環境問題を解決するためには、市民の皆さんと一体となって進めることが大切だと考えています。再生可能エネルギーの活用を促すため、住宅用太陽光発電システムや蓄電システムの設置費の一部を補助しています。

そのほかにも、環境講座や教室の開催、緑のカーテンコンテストなどを通して、環境問題への意識の向上を図っています。



子ども向けに「夏休み！環境教室」を開催